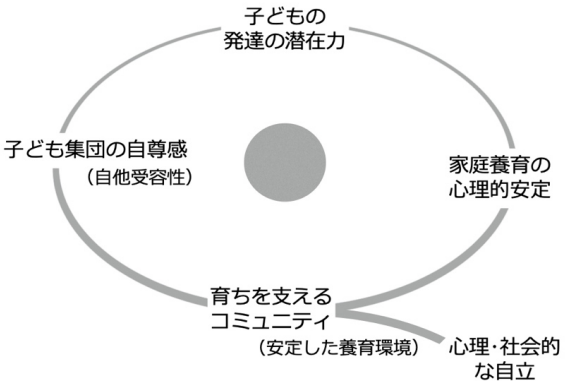
『発達障害のある人を地域で支える』

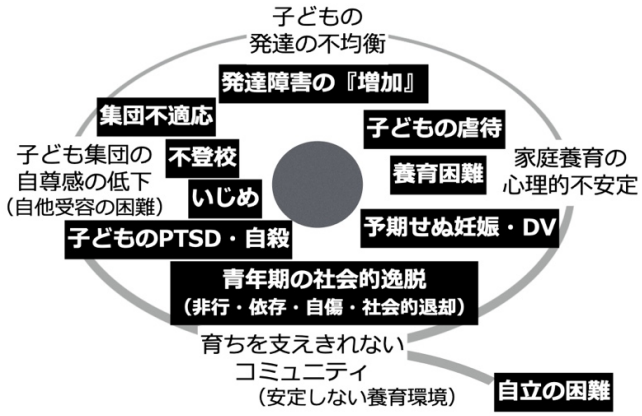
子どもと家族のメンタルクリニック やまねこ　田中　哲

○　はじめに

“It takes a whole village to raise a child”
ひとりの子どもを育てるには村が丸ごと必要である。（アフリカの諺）

○　こころの“育ち”と“育てるもの”の関係





○　発達を支えるコミュニティの役割

☞　ヒトの子どもはとても未熟なまま生まれる

自力では無力な赤ちゃんが唯一あてにできるもの

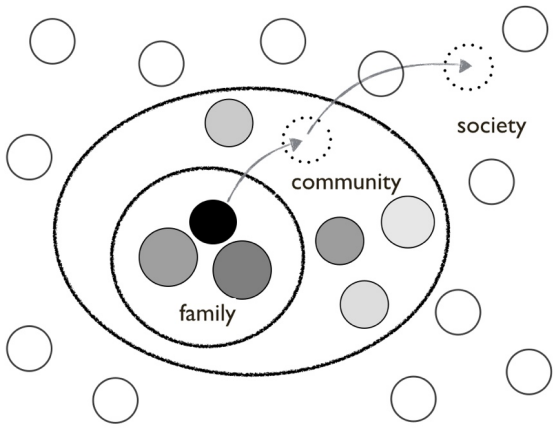
安定した関わりから生まれる子どもの存在肯定

安全基地が可能にする人への関心と関係の広がり

☞　子どもはコミュニティに生まれる

子どもは生まれた瞬間から人の間で暮らしはじめる

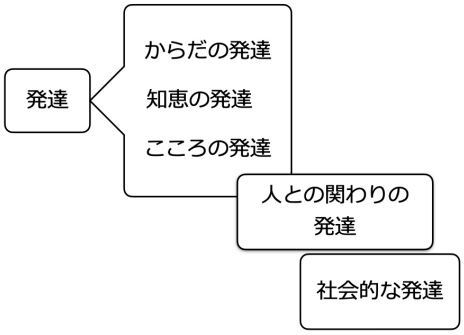
心は人の間でしか成長できない



☞ 社会化する足場としてのコミュニティ

コミュニティに居場所を見つけることで自立のルートが拓けてくる。

コミュニティに居場所を見つけられないと自立の道のりは急に見えづらくなる…。



○ **コミュニティの役割という視点から『発達』と『発達障害』を捉え直す**

❧ 『発達』とは何だろう

❧ 子どもの権利としての『発達』

締約国は、児童の身体的、精神的、道徳的及び**社会的な発達** (physical, mental, spiritual, moral and **social development**) のための相当な生活水準についてのすべての児童の権利を認める。

【児童の権利に関する条約 第 27 条 1】

滝川先生の発達論

『そだち（発達）とは、養育者との間で様々な体験が分かち合われていくことを通して、子どもが人間の持つ**共同世界（社会）を共に生きられるようになる**歩みである。』

【滝川一廣・子どものそだちとその臨床】

❧ 『発達障害』とはどういうことか

本来の定義でいうと『発達障害』とは…

『…自閉症、アスペルガー症候群 その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現 するもの…』 【発達障害者支援法】

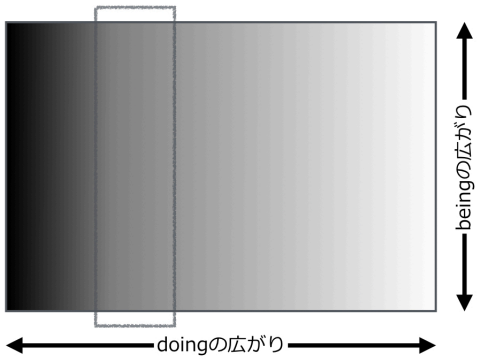
『発達障害』はどのように使われているか、または発達障害現象

発達バランスや感受性・大切なことの多様性

その子が発達するタイミングの多様性

発達する環境の多様性

その人の在り方（being）の多様性（厚み）



- 『発達障害』の考え方と支援
  - 時代や文化で『普通』は変わる
  - 在り方（being）の多様性
  - 発達的マイノリティ

○ 子どもの育ちのためのコミュニティの役割

- コミュニティが発達に関わるとは
  - 人間は共同でなければ子育てができない生き物である
  - 心の発達はコミュニティの中で育まれる
  - 大切なものを共有する手段としての social communication
- コミュニティが育ちの助けになるためには
  - 子どもの育ちが大切なものとして共有されている
  - 子どもの育ちのための居場所が提供されている
  - 子どもの『らしさ』と歩調の多様さに寛容なコミュニティ
  - コミュニティの中に多様な人たちがいることによる“厚み”のある助け

○ 子どもたちの well-being とは何か…

being の視点

- いるということ、（他の誰でもない）その人であるということ
- その人の「らしさ」としての在り方、感じ方、考え方
- その時々の「気分」「やる気」「ノリ」など
- 常に doing（行動・能動性）の背景にあって見えないもの
- 誤った doing はありうるが、誤った being はあり得ない。
- 良い状態（自分に意味がある感覚・自尊感）を維持するためには、常に他者との関わりを必要とする。
- 新生児期の being の良さは母子間で継承されるが、成長するに伴い、継承はコミュニティとの間でも行われる。

○ おわりに

- 自分であることの心地よさ(well-being)を支援する

